

中小企業景況状況

射水商工会議所管内（新湊地区）における中小企業の景気動向を定期的に把握し、情報の提供並びに射水商工会議所が行う経営支援の基礎資料に資するため、四半期毎に定点観測を実施する。第4回目として、平成29年1～3月期実績および平成29年4～6月期見通しを対象期間として調査した。

《回答企業内訳及び回答率》

業種	対象企業数	回答企業数	回答率 (%)
製造業	10	10	100%
建設業	10	10	100%
小売業	10	10	100%
サービス業	10	10	100%
卸売業	10	10	100%
合計	50	50	100%

※本調査でのD.Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について、前年同期比および前期（四半期前）と比較して増加（上昇・好転）企業割合と減少（低下・悪化）企業割合の差を示すものである。

《主要景況項目》

○産業全体 → [全産業](#)

- 業況判断D.Iは、前期より1.9ポイント悪化し8.3ポイントとなった。来期は△17.8ポイントであり、悪化の見通しである。
- 売上額D.Iは、前年同期比では△4.1ポイントであり減少傾向であるが、前期比では6.0ポイントと増加した。
- 採算（経常利益）D.Iは、前期より3.5ポイント悪化し、12.5ポイントとなった。
- 従業員D.Iは前期より0.4ポイント悪化の△17.4ポイントであり、人手不足の状態が続いている

○産業別

- サービス業は前期より売上額は減少したが、業況は維持されている。来期の業況は悪化の見通しである。 → [サービス業](#)
- 建設業は、前年同期と比べ、採算（経常利益）は好転し、全ての企業が『収支トントン』以上である。しかし、業況は悪化しており、今後も悪化の見通しである。 → [建設業](#)
- 卸売業は、前期と比較して売上額は増加し、業況は好転した。来期は現状を維持する見通しである。 → [卸売業](#)
- 製造業は、前期より売上額・売上単価共に上昇し、業況は好調で全ての企業の採算は、『収支トントン』以上である。しかし、今後の業況は悪化の見通しである。 → [製造業](#)
- 小売業は、前年同期より売上額が10ポイント増加しているが、業況は40ポイント悪化した。要因として商品の仕入単価の上昇が大きいと考えられる。来期も業況は悪化の見通しである。 → [小売業](#)